

1 単元について

対 象 学 年	小学校 第1学年
学習指導要領	第1学年及び第2学年の内容 (2)
単 元 名	「みんな みんな だいすき」...おまかせマンにだいへんしん...(全9時間)
単 元 目 標	<p>家族の「手」を通して家庭生活に関心をもち、家族の一員として自分でできることを見つけて、家族に喜んでもらうための「ひみつとっくん」を意欲的に行い、自分の役割を積極的に果たすことができる。(生活への関心・意欲・態度)</p> <p>「手の探偵」を通して、家庭生活を支えている家族のことや自分でできることについて考えたり、家族が喜ぶことを見つけたりすることができる。また、それらのことを話したり聞いたりすることができる。(活動や体験についての思考・表現)</p> <p>家庭生活を支えている家族のことや自分でできるようになったことを進んですることが大切であることに気付くことができる。(身近な環境や自分についての気付き)</p>
配 慮 事 項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着のための工夫</p> <p>単元指導計画作成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の一員として自分の役割を積極的に果たすことを意図した指導目標、学習活動、評価規準、評価方法、指導・援助等が明確な単元指導計画の作成をする。 ・学習指導要領では、家族の団らん、家族で過ごす楽しみ、家族一人一人のよさ、家庭での自分の生活を考えるという視点へ広がっているため、「手」から単元に入ることによって、「手」を通して家族とふれあい、家族について興味を持ち、家族の思いに気付かせたうえで進めていく。 <p>単位時間における工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自ら学ぶ意欲を高めるために、子どもたちの実態を的確にとらえ、子どもたちの意識、思い、願いを大切に活動ができるように配慮する。 ・家族の手形・写真を用意し、子どもたちの思いが常に家族に向けられるようにする。 ・家族の一員としての役割を果たすために、“おまかせマン”になりたいという思いをもたせるため、子どもたちが、試行錯誤を進んで繰り返す活動を仕組む。 <p>教師の指導・援助とねらいの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに自信をもたせるために、子どもたちがしていること、思っていること、できるようになったことなどをその都度価値付けるための「かがやきカード」を使用し、適切な言葉がけとともに手渡す。 ・家庭生活を取り上げた単元であるため、家での子どもの様子や学校での活動の様子を伝え合うなど、保護者との連携を密にする。 ・教師は支援者として、子ども一人一人の思いや願い、その実現方法などを受け止めたうえで、その実現に向けて個の学習状況を的確に評価し、一人一人に応じた適切な指導により共に願いの実現を図る。 ・子どもの思いや願いを活動に生かすことができるように、学習過程を工夫する。また、意識の持続をはかるために、合科的・関連的な指導をしていく。
参考資料	・見つけたよカード ・ひみつのとっくんカード

2 単元の評価規準

【学習指導要領の内容】(2)「家庭と生活」

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
内容のまとめ ことの評価規準 (2)	家庭生活に関心をもち、自分の役割を積極的に果たそうとするとともに、規則正しく健康に気を付けて生活しようとする。	家庭生活を支えている家族のことや、自分でできることなどについて考え、それらを表現することができる。	家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに気付いている。
単元の評価規準	・家族の「手」を通して家庭生活に関心をもち、家族の一員として自分でできることを見つけて、家族に喜んでもらうための「ひみつとっくん」を意欲的に行い、自分の役割を積極的に果たそうとしている。	・「手の探偵」を通して、家庭生活を支えている家族のことや自分でできることについて考えたり、家族が喜ぶことを見つかけたりすることができる。また、それらを話したり聞いたりすることができる。	・家庭生活を支えている家族のこと、自分でできるようになったことを進んで行うことが大切であることに気付いている。
活動の内容における評価規準	「手」の写真に興味をもち、自分も家族の手を調べてみようとしている。 自分にもできそうで、家族が喜んでくれそうな仕事を見つけ、仕事に対する願いをもとうとしている。 自分でできる仕事を継続して行おうとしている。	「手の探偵」を通して、家族の特技や仕事について言葉でみんなに伝えたり、友達の家族について聞いたりすることができる。 仕事の難しさなどを感じながら、家族が喜んでくれるように、自分で決めた仕事をもっと上手になりたいという思いをもって工夫して取り組むことができる。 自分でやってみたい仕事のこつが分かり、「できる」という自信をもって仕事をすることができる。	家族には家での仕事(役割)がたくさんあり、お互い協力して生活していることに気付いている。 家族のために自分でできることがあるということに気付いている。 自分でできることを進んでやるのが大切であることに気付いている。

3 指導と評価の計画 (全9時間)

時	ねらい 具体的な10の視点	学 習 活 動	評価規準と評価方法	指 導 ・ 援 助
1	自分の家族の「手」について関心をもつことができる。(イ)	<p>いろいろな「手」の写真を見て、「この手だれの手クイズ」をする。</p> <p style="text-align: center;">「手」のひみつをみつけよう</p> <p>「手」の写真を見て、気付いたことを発表する。 自分の家族の「手」も調べてみたいという意欲をもつ。</p>	<p>「手」の写真に興味をもち、自分も家族の「手」を調べてみようとしている。</p> <p>ア - (発表の内容・つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を見て、うれしそうに発表したり、つぶやいたりしている。 ・自分の家族のことを結び付けて話そうとしている。 ・自分も調べてみたいというつぶやきがあり、真剣なまなざしで見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元に入る前に、夏休み中のお手伝いの実態調査や、学校が始まってからの手伝いの実態調査をしておく。 ・いろいろな「手」の写真を用意する。 ・手形をとるときに、「手」を観察するように働きかける。その見る観点を示す。 ・あらかじめ家庭へ連絡をして、家族全員の手形をとってもらおうよう依頼する。
2 3	家族の「手」を見て気付いたことをみんなの前で発表したり、聞いたりすることができる。(オ)	<p style="text-align: center;">かぞくの「手」のひみつをしょうかいしよう</p> <p>手形を見せながら、家族紹介をする。(家族の特技など話すとき)</p> <p>みんなの家族紹介を聞いて気付いたことを発表する。 「手」でしていることをもっと探偵したいという意欲をもつことができる。</p>	<p>家族の特技や仕事について言葉でみんなに伝えたり、友達の家について聞いたりすることができる。</p> <p>イ - (発表の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族について、みんなの前で話している。 ・友達の話真剣に聞いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が見本を示す。 ・前時に示した、「手」を見る観点で家族紹介できるように、働きかける。 ・「手」でしていることがもっとないのか調べるよう意欲をもたせる ・発表が苦手な子に、あらかじめ練習をさせておく。
4	家族のためにする家の仕事の多さに気付き、自分も何か役に立ちたいという意欲をもつことができる。(イ)	<p style="text-align: center;">「手」って どんなんことをしているのか</p> <p>「手の探偵」をして見つけたことを発表する。 家事がたくさんあることに気付く。 その中の仕事を自分も家族のためにやりたいという意欲をもつ。</p>	<p>家族には家の中での(役割)仕事がたくさんあり、お互い協力して生活していることに気付いている。</p> <p>ウ - (調査の記述・つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の役割(仕事)がたくさんあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてきた「手」のことを、家事・家計を支える仕事・趣味的なことに分けて板書する。 ・「家族みんなのための仕事がたくさんあるね」「大変だね」「みんなで協力しているね」という気付きを大切にす。

5	自分にもできる、家族が喜ぶ仕事を考えることができる。(イ)	<p style="text-align: center;">じぶんでできることは なにかな</p> <p>どんなことができるようになったら家族が喜んでくれるか考え仕事を決める。 やってみたい仕事についてがんばりたいことを考えて、カードに書く。 家族を喜ばせるために「ひみつとっくん」をすることを知る。</p>	<p>自分にもできそうで、家族が喜んでくれそうな仕事を見つけ、仕事に対する願いをもとうとしている。</p> <p>ア - (発表の様子)</p> <p>・「お家の人 が やってほしいとっていたから、やってみたい」など、家族が喜んでくれる仕事を決めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひみつのとっくん」カードを用意する。 ・その仕事がどのようにできるようになりたいか、具体的な願いをもたせる。
6 本 時	家族の一員としての役割を果たすために自分で決めた仕事を行い、どの部分をどのように工夫すると上手になるのかを考えながら取り組むことができる。(イ)(コ)	<p style="text-align: center;">おまかせマンになるための ひみつとっくんをしよう</p> <p>がんばりたいことを発表する。 特訓したい仕事の場所へ行って仕事の特訓を試みる。 がんばり発表タイム やり方のヒントビデオを見てやってみる。 仕事に取り組んだ感想を発表する。</p>	<p>仕事の難しさなどを感じながら、家族が喜んでくれるように、自分で決めた仕事をもっと上手になりたいという思いをもって工夫して取り組むことができる。</p> <p>イ - (行動観察・発表内容・表情)</p> <p>・難しいなとか、どうすれば上手になるかななどと感じたり、考えたりしながら特訓をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の大変さに気付かせる。家族に喜んでもらえる“おまかせマン”になるために、友達の活動やビデオを通して、試行錯誤しながら仕事のこつを見つけようとする姿を大切にする。 ・自分でやり方を見つけられるように声をかける。
7	自分でやってみようと考えた仕事をすすんで行い、仕事のこつをつかみ、自信をもって仕事することができる。(イ)(コ)	<p>どんなことができるようになりたいか、確認する。(名人さんの紹介)</p> <p style="text-align: center;">パワーアップとっくんをして おまかせマンになろう</p> <p>お仕事名人さんについて練習する。 できるようになったことなどを発表する。</p>	<p>自分でやってみようと思える仕事のこつがわかり、「できる」という自信をもって仕事することができる。</p> <p>イ - (行動観察・表情)</p> <p>・名人さんがやるのを真剣に見ている。 ・わからないときは、名人さんに聞いて自分の仕事に取り組んでいる。 ・「できるようになった」という表情。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・名人さんには、特訓のすすめ方をあらかじめ、打ち合わせしておく。 ・こつを見つけ、一生懸命仕事に取り組む姿を価値付ける。 ・やり方がわからず、活動が滞っている子へ、「名人さんに聞くといいよ」と声をかける。
8	家での仕事の実践の様子を発表し、自分に喜びをもちながら家族の一員として冬休みも仕事を続けていこうとする気持ちをもつことができる。(オ)	<p style="text-align: center;">おまかせマンのはっぴょうをしよう</p> <p>家庭での仕事のがんばりを発表する。 友達のがんばりを聞いて、自分も冬休みががんばろうという意欲をもつ。</p>	<p>家族のために自分でできるということがあることに気付いている。</p> <p>ウ - (発表の内容)</p> <p>・家でがんばった様子を話している。 ・次はこういう仕事もやってみよう、続けてがんばりたいという意欲をもっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家の人に見届けてもらうようお願いをする。 ・おまかせカードを使って、家でのがんばりを家の人に価値付けてもらう。

課外冬休み	決めた家での仕事を、家族のために続けて取り組むことができる。 (イ)(コ)		自分でできる仕事を継続して行おうとしている。 ア - (手紙の内容・日記) ・明日も続けて仕事をがんばろうという意欲をもっている。	•できるようになったことなどの価値付けの声かけをしてもらうよう、あらかじめ保護者をお願いしておく。
9	冬休みの実践を発表し、手紙を読んで家族の一員として自分の生活をよりよくしようという気持ちをもつことができる。 (オ)(ケ)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">おまかせマンになったよ!</div> 冬休みに挑戦した仕事について発表する。 家の人からの手紙を読む。 手紙を読んだ感想を発表する。 最初の手形を通して、自分を振り返る。	自分でできることを進んでやるのが大切であることに気付いている。 ウ - (発表の内容・つぶやき) ・仕事を続けて実践できた様子を話している。 ・手形や自分でできるようになったことを振り返ったり、手紙を喜んで読んだりしている。	•事前に、家の人に子どもの仕事の様子に対して、認め励ます内容の手紙を書いていただくように依頼しておく。 •できるようになったこと、成長したことに気付くよう、以前の自分と比べられるように働きかける。

4 単位時間の展開例

(1) 本時のねらい 家族の一員としての役割を果たすために自分で決めた仕事を行い、どの部分をどのように工夫すると上手になるのかを考えながら取り組むことができる。

(2) 本時の位置 6/9時

(3) 展開案

過程	学習活動	評価規準と評価方法 ・評価の視点 () 評価方法	指導・援助
つかむ	<p>1 がんばりたいことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> お母さんが「洗濯物たたみをしてくれるとうれしいな」って言ったから、上手にできるようになりたいな。 食器洗いはやったことがあるけど、ピカピカに洗えるようになりたいな。 ゴミを1つも残さず、掃除したいな。 		<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ、子どもの家での仕事の実態や本時の願いを把握しておく。
やつてみる	<p>おまかせマンになるための ひみつ</p> <p>2 特訓したいお仕事の場所へ行って仕事の特訓をしてみる。 <u>洗濯物たたみコーナー</u> <u>食器洗いコーナー</u> <u>玄関(へや)の掃除コーナー</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 簡単簡単！もうできるよ。 全然できないよ。どうやってやろうかな。 コツがわかった気がするよ。 こうやると、上手にできるよ。 難しくて、できないよ。 	<p>思考・表現 仕事の難しさなどを感じながら、おまかせマンでくれるように、自分で決めた仕事をもっと上手になりたいという思いをもって、工夫して取り組むことができる。</p> <p>イ (行動観察・発表内容・表情)</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じグループの友達が仕事をやっている様子をじっと見る姿。 何度も何度も挑戦する姿。 難しいなと感じているつぶやき 「むずかしいな。」「ぜんぜんできないな。」「どうやるんだろう。」「お母さんはこうやっていたな。」「前は、こうやってやったんだけどな？」 ヒントビデオを真剣に見つめる姿。 そのやり方を真似してみる姿。 できなくても、あきらめない姿。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時では、仕事の大変さに気付かせ、どのようにしたら家の人に喜んでもらえる“おまかせマン”になれるか、友達の活動やビデオを通して、試行錯誤して仕事のこつを見つけようとする姿を大切にす。 上手にできなくても、繰り返しがんばっている子どもや、よい気付きをしている子どもを価値付ける。 適当にやって、できるようになったと自分なりに満足してしまった子どもへは、「お家の人に喜んでもらえるかな」と“おまかせマン”の意味について考えさせる言葉かけをする。 活動が進まない子どもや気が散ってしまう子どもには、なぜおまかせマンになるのかという自分の願いを振り返らせる。
ふりかえる	<p>3 がんばり発表タイム 途中で、お互いのがんばりを見合う</p> <p>4 やり方のヒントビデオを見てやってみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> こうやってやればできるんだね。わかったぞ。 こうすれば、簡単だね。 ぼくのやり方と違うけど、そのやり方でやってみよう。 <p>5 仕事に取り組んだ感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少し、できるようになってきたよ。 もっと上手にできないかな？ 名人さんに教えてもらいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ここまでがんばったよ。」と、自分のがんばりを自覚する姿。 「また、がんばって練習したいな。」というつぶやき。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のときに、どのような姿がよかったか一人一人の子どもが自覚できるように、子どもの気付きや高まりを価値付けておき、意図的に指名できるようにする。

5 評価の実際と個に応じた指導事例

(1) 本時のねらい(6時/9時)

家族の一員としての役割を果たすために自分で決めた仕事を行い、どうすると上手になるか考えながらうまくできるよう取り組むことができる。

(2) 評価規準

仕事の難しさなどを感じながら、家の人喜んでくれるように、自分で決めた仕事をもっと上手になりたいという思いをもって工夫して取り組むことができる。

<活動や体験についての思考・表現(イー)>

(3) 評価方法

- ・ 行動観察
- ・ 発表の内容・表情

(4) 評価の視点・具体的な子どもの姿

【自分で決めた仕事をもっと上手になりたいという思いをもつ姿、工夫して取り組む姿】

- ア) 特訓の場面
- ・ 同じグループの友達が仕事をしている様子をじっと見る姿。
 - ・ 友達の姿を見て、真似をしてやってみる姿。
 - ・ 何度も何度も挑戦する姿。
 - ・ 「むずかしいな」とつぶやく姿。
「むずかしいな。」「ぜんぜんできないな。」「どうやるんだろう。」「お母さんはこうやっていたな。」「前、こうやって、やったんだけどな？」
- イ) ヒントビデオを見る場面
- ・ ヒントビデオを真剣に見つめる姿。
 - ・ ヒントビデオを見てつぶやく姿。
「ぼくといっしょだ。」「そうか。」「わたしとちがう。」
 - ・ そのやり方を真似してみる姿。
「ビデオの真似をしてやってみよう。」
 - ・ 何度も繰り返し見る姿。
- ウ) 振り返りの場面
- ・ 「こんなふうにはやってみたよ。」「上手できるようになったよ。」と、自分のがんばりを認める姿。
 - ・ 「もっと、上手になりたいな」とつぶやく姿。
 - ・ 名人さんに自分の仕事を見てもらいたいという思いをもつ姿。
 - ・ 名人さんにもっと聞きたいという思いをもつ姿。

(5) 評価規準の実現のための事前・事後の具体的な指導・援助

事前・・・ 家族の手形・写真を掲示

- ・ 子どもたちが、家族を身近に感じることができる。

(参考資料A)

「ひみつのとっくんカード」

- ・ 子どもの願いを明確にする。

(参考資料D)

ヒントビデオの作成

- ・ 次時に招くボランティアの名人さんが仕事をする様子を、あらかじめ撮って準備をしておく。仕事をする様子は、手を中心に撮影をしておく。

授業中・・・ “かがやきカード” の使用

- ・子どもたちがしていること、思っていること、できるようになったことなど、子どもたちの気づきを価値付けるためのカードを活用する。（参考資料B，C）

対象とのかかわりを広げたり深めたりする言葉かけ

- ア) 特訓中
- ・気づきを促す「どうしてこうするといいの?」「だれから教えてもらったの?」
 - ・方向付ける「友達の手をよくみてごらん。」
 - ・共感する「できているね。」
 - ・承認する「何回も繰り返し練習してすごいね。」
 - ・価値付ける「こうするといいんだね。」
 - ・視点を示す「難しいところはどこかな?」
 - ・広める「こんなやり方もあるんだね。」「さんのやり方はすごいよ。見てごらん。」

- イ) ヒントビデオを
見ている時
- ・方向付ける「ビデオの中の人の手はどうなっているかな?」
 - ・視点を示す「自分と比べてどうかな?」
 - ・確認する「もう一回練習してみたいの?」
 - ・価値付ける「おまかせマンに近づいてきたね。」

- ウ) 振り返り時
- ・“かがやきカード”を見て振り返りができるように声をかける。
 - ・気づきを促す「今日は、どんな“かがやき”があったかな?」
 - ・方向付ける「どんなことを、名人さんに教えてもらいたい?」「どんなことを、名人さんに見てもらいたいかな?」

事後・・・ “かがやき” を再確認

- ・授業中に渡せなかった子どもの“かがやき”を確認し、次時への自信をもたせるために“かがやきカード”を渡す。
- ・名人さんに、見てもらいたいこと、教えてもらいたいことを一人一人確認する。

(6)「おおむね満足できる」状況(B)を実現するための指導・援助

【「おおむね満足できる」状況(B)に達していないと判断した児童に対して教師が働きかけや援助を行い、「おおむね満足できる」状況(B)とした事例】

〈事例1〉

【食器洗いの特訓をするA男の願い】（食器洗いは初挑戦）
「汚れがとれるように洗いたい。できるようになったら、うちでやりたい。」

【普段の様子から】

努力はするが、細かいところまで気を配ることができず、行き詰まってしまうややる気をなくすることが多い。

【本時：特訓中】

何回も練習して一生懸命やっているが、「難しいな」と感じ始めている。なかなか自分から上手になるコツが見つけられず、練習をあきらめかけている。

普段の様子から考えると、(B)に達することが困難であると判断し、教師が方法を示唆することにした。

教師の
指導・援助

- ・繰り返し挑戦する姿を、認め、安心させる。
- ・こうしたらどうかと方法を示す。

特訓中の声かけの具体

T : 「A君できるようになった？」

A男 : 「むずかしいよ。だから、できない。」

T : 「でも、何回も練習しているA君はすごいと思うよ。じゃあ、どうしたら上手になるかな？
く
んの手を見てみたらどう？」

上手に洗えるコツをつかんだA男はやる気を取り戻した。

ヒントビデオを見た後の声かけの具体

A男 : 「先生、見て！こうやって、洗うといいんだよ。さっきより、きれいでしょ？」

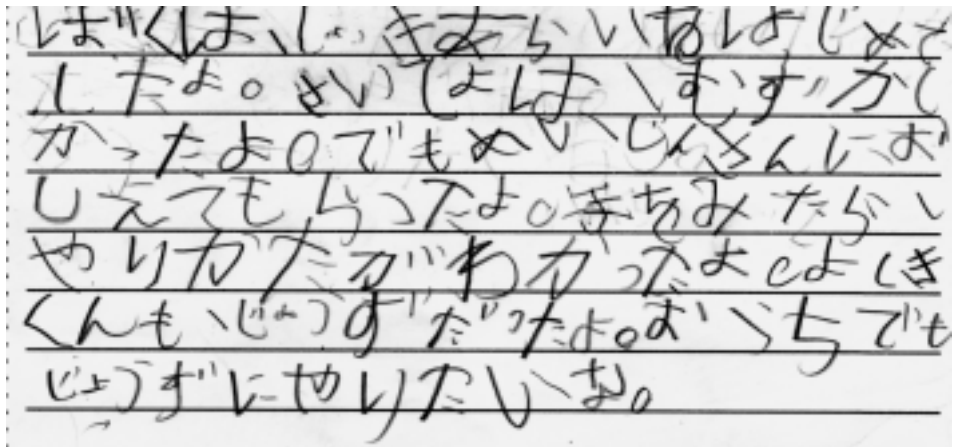
T : 「本当。さっきより、上手にできるようになったね。ビデオから、見つけたんだね。すごいね。」

A男 : 「絶対、家でやるぞ！早く、家に帰ってやりたい！」

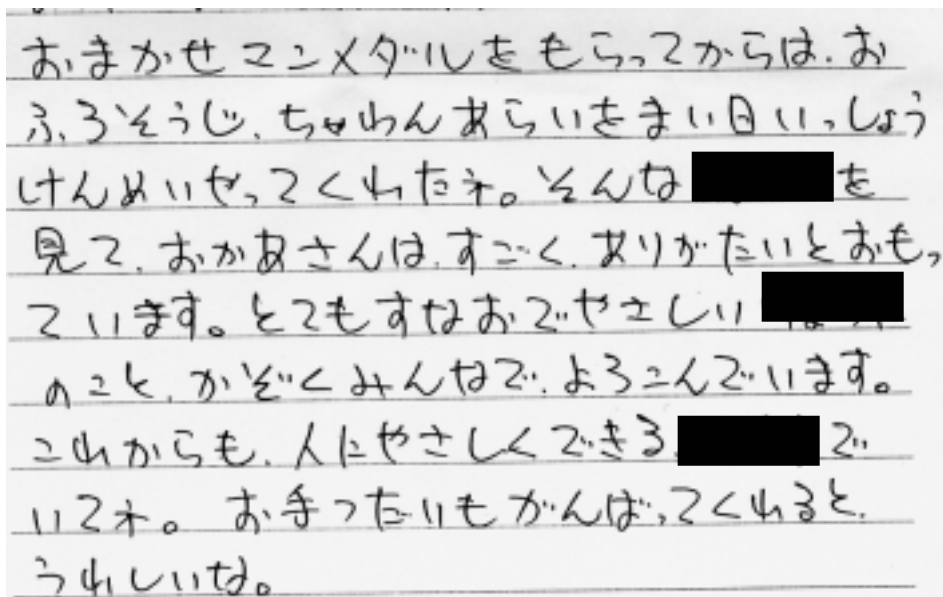
友達の手をじっと見てコツをつかみ、やる気を出して洗い始めた。さらに、ヒントビデオを見たことで、ビデオの中の名人さんの手からやり方を学び、真似して、もっと練習したい、上手になりたいという思いをもち、自信をもってやれるようになった。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断

【单元終了後のA男の
「みつけたよカード」】



【单元終了後、家の人からA男に書いてもらった手紙】



(事例2)

【玄関掃除の特訓をするB男の願い】

「いろいろなゴミをとって、うちがきれいになるようにがんばりたい。」

【普段の様子から】

普段から集中力に欠けることが多い。自分は掃除が得意だと自信をもっている。しかし、はき掃除はやったことがない。本時の特訓でも「ぼくはすぐ上手になれる」と、やる気いっぱいである。

【本時：特訓中】

やる気満々で、特訓を始めたが、思うようにゴミがとれず、ホウキが悪いからできないんだとホウキのせいにして、特訓のやる気を失い、どうしたら上手になるのかを見つけようとしないう。

普段の様子から考えると、(B)に達することが困難であると判断し、教師が対話し、原因に気付かせ、方法を示唆し、共感して、自信をもたせることにした。

教師の
指導・援助

- ・本人の願いを思い起こさせたり、活動状況を見取ったりしながら対話をし、自分がなぜうまくできないのか、原因に気付かせる。
- ・その原因を解決させるための方法を示す。

特訓中の声かけの具体

T : 「B君掃除が得意だったね。ホウキそうじはどうか？上手にできるようになった？」

B男 : 「ホウキが悪いから上手にできない。もうダメだよ。」

T : 「本当にほうきのせいかな？ さんの手と違うところないかな？」

B男 : 「ほんとだ、手だ、手が違う。」

自分と友達を比べて違うところに気付き始めて、やる気を少し取り戻した。

ヒントビデオを見た後の声かけの具体

B男 : 「名人さんに持ち方を教えてもらわないかん。そうしないと、上手にできない。」

T : 「どうして、名人さんに教えてもらいたいのか？」

B男 : 「ビデオの名人さんの持ち方と僕の持ち方は違うと思うけど、よくわからないよ。だから、名人さんにどこが違うか教えてもらいたい。」

友達のホウキの持ち方と比べて、自分の持ち方が違うから上手にできないことに気付いた。そして、ヒントビデオを見て、名人さんに持ち方を教えてもらって、もっと上手になりたいという気持ちをもつことができた。

「おおむね満足できる」状況(B)と判断

【単元終了後のB男の「みつけたよカード」】

ほうきのとんがたニとをおしえをけり
じょうすにまたいひみつかいみつきりまは
いあんなことがおかりました。
ほうきがたかたかたけとかがんはてや
たよ。おきのもちかたもわかった。いあんなこ
とがわかっててきたです。ほくもそういきが
んはりたります。

【単元終了後、家の人からB男に書いてもらった手紙】

おうちでうれしそうに、おまか
まんメタルを遊ばせてくれたね。
いっしょうけんめい、そうじを
するくんが、めにうかぶ
うです。😊
せんせいにもほめてもらえ
、よかったね。😊
おうちでもけんかんそうじが
てもじょうずにできました。
きれいにしてくれて、ありが
う。😊
かそくせんいんで、
の

6 参考資料

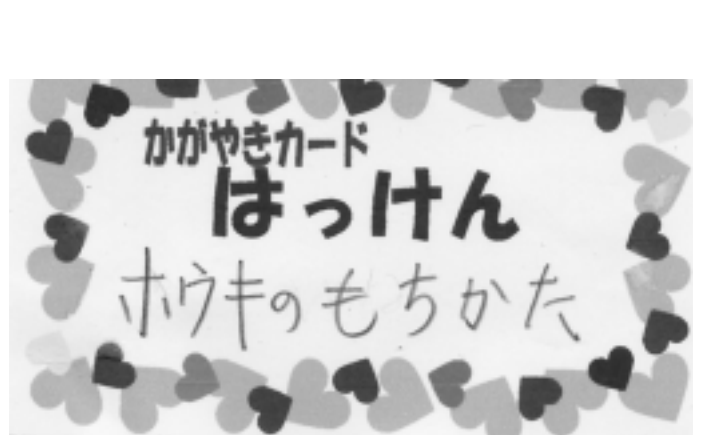
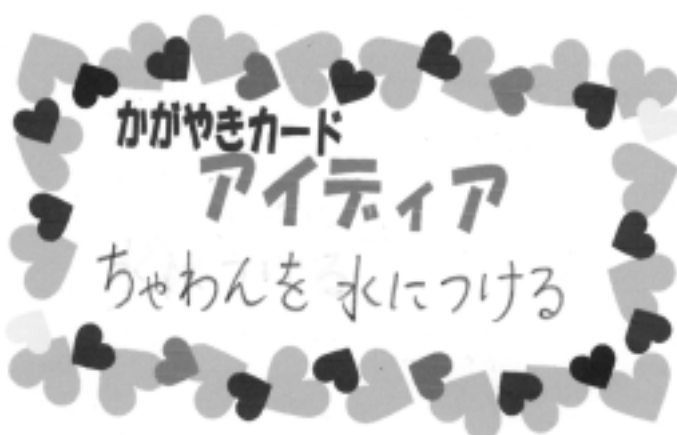
資料A



資料B



資料C



しょうがっこう

1ねん

ひみつのとっくんカード

がつ	にち	
なまえ		

やってみたいしごと

こんなこと、できるようになりたいな …ぼく、わたしのねがい…

家族写真